

私立大学情報教育協会
平成29年度第3回法律学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

- I. 日時 平成29年12月23日(土) 10:30-12:00
II. 場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局
III. 出席者 加賀山委員長、執行委員、中村委員、高嵩委員、吉野委員、笠原アドバイザー
事務局 井端事務局長、森下、中村

IV. 資料

- ① 市民性の涵養を目指した法政策フォーラム型授業モデルの詳細設計
検討事項の整理(メモ)
- ② Glexa(グレクサ)資料
- ③ 法学系分野「法政策フォーラム型授業の運用」中村委員

V. 検討事項

1. フォーラム型授業モデルの詳細設計について

事務局より前回の会議の要旨と資料の説明を行った後、中村委員から前回の検討を踏まえて作成された「ICTを活用した分野横断フォーラム型授業の提案」及び、対話集会での報告内容が説明された。

(1) 「ICTを活用した分野横断フォーラム型授業のモデル」について

以下の点が確認された。

- ① 一人の教員が担う授業の弱点を補い、具体的な事実から理論へ繋げるボトムアップ式の教育モデル。
- ② そのため、分野横断的な問題について複数分野の教員が参加してネット上にフォーラムを形成し学生に議論させる授業モデル。
- ③ テーマについては、具体例を挙げ、演繹的ではなく帰納的に展開させる。
- ④ 対立する意見から最適解を発見する過程において、制約条件の設定が重要である。
また、他分野からの批判は重要であり、知識習得から批判的思考力の獲得や、いろいろな知識を組み合わせる創造的思考力が重要であることも確認された。

(2) 授業モデルの運用について

授業モデル運用は、教員関与の割合の低減に沿ってフェーズ1からフェーズ3とすることを確認した。

フェーズ1: 検討課題の提示と、課題を解くための基本事項についての共通認識

フェーズ2: 論点に関する意見の相違を認識し準備的討論にむけた問題を整理

フェーズ3: 課題解決を目指す最終的討論と結論の社会への発信

それぞれのフェーズでは、「発想力」「分析力」「論証力」「説得力」「調整力」だけでなく、「質問力」やネットを活かした「振り返り」、「まとめ」が重要であることが確認された。

(3) その他、以下の議論がなされた

- ・ ネット上で成果を共有できる場所が必要である。
- ・ フォーラムの作り方の問題で、全体を見ることができればよい。
- ・ まとめを見ることができるよう、要旨をまとめる書記担当を置くのは重要であり、記録役は学生が担うべきである。
- ・ 解決案の提示だけではなく、「発信」を付けるべきである。

これらの点を踏まえて本日のアクティブ・ラーニング対話集会において、概要を報告する。
次年度は神奈川大学のサーバを使い、委員の大学(京都産業大学)と連携して実験を予定することが確認された。

実験授業のイメージは以下の通りである。

法学分野「法政策フォーラム型授業の運用」

教員は議論の展開に応じて指導の度合いを定める 後半に向かうにつれ議論の展開に学生の自主性が高まる	Phase I	ネット上	フォーラム1 検討課題の提示	想定される検討課題の提供者		
		教室内	演習1 認識の共有	想定される授業内容		求める力
	Phase II	ネット上	フォーラム2 論点に関する準備的討論	この段階で期待される討論		求める力
		教室内	演習2 問題整理のための討論	想定される授業内容		求める力
	Phase III	ネット上	フォーラム3 課題解決を目指す最終的な討論	この段階で期待される討論		求める力
		教室内	演習3 課題解決の最終案の取りまとめ	想定される授業内容		求める力
課題解決の最終案を発信						

※ 一つの課題について3~5週間を使う予定